

原文

麻疹一哈ニ曰ク

松田蔀妻^{シトミ}年三十餘、發熱スルコト二三日、身熱頓ニ退キ口鼻清冷ニシテ四肢皆微厥シ脈診模索シ難ク頭冷汗ヲ出シ時ニ或ハ嘔逆ス其腹狀ヲ按ズルニ心下痞鞭、臍腹拘急甚シ自ラ言フ經候來ラザルコト兩月ト因テ桂枝加芍藥生姜人參湯ヲ與フ其明^{アス}蒸々トシテ發熱シ遍身汗出デ疹子汗ニ從テ出ヅ而モ拘急未ダ安カラズ浮石丸ヲ兼與スルコト方中ニ芒硝アリ三四日所リ經信利スルコト常ニ倍シ疹收リテ後前證舊ニ復ス。

余曰ク本方ニ浮石丸ヲ兼用スルハ本方ニ桂枝茯苓丸加大黃ヲ合用スルノ正シキニ如ザルナリ。

麻疹一哈に曰く

松田蔀妻^{しとみ}、年三十餘。發熱すること二三日、身熱頓^{とみ}に退き、口鼻清冷にして、四肢皆微厥し、脈診模索し難く、頭冷汗を出し、時に或は嘔逆す。其の腹狀を按ずるに、心下痞鞭、臍腹拘急甚だし。自ら言つ、經候來らざること兩月、と。因りて桂枝加芍藥生姜人參湯を與う。其の明^{あす}、蒸々として發熱し、遍身汗出で、疹子汗に従いて出づ。而も拘急未だ安からず。浮石丸（浮石・大黃・桃仁の三味からなる、時に赤石脂・芒硝を加え五味とする場合もある）を兼与すること三四日^{ほか}所り。經信利すること常に倍し、疹収りて後、前証、旧^{もと}に復す。

余曰く、本方に浮石丸を兼用するは、桂枝茯苓丸加大黃を合用するに如ざるなり。

本書

2

段落をつけることで、湯本氏の記載と古典からの引用文を区別できるようにした。

1

カタカナ表記は平仮名に。

3

校訂者の註釈は小文字で（ ）内に記載。